

第3回昭島市地域福祉計画審議会 議 事 要 旨

1 開催日時

令和5年7月5日(水) 午後6時30分～午後8時10分

2 開催場所

昭島市役所2階204会議室

3 出席者

(委員)

福島会長、安倍(弘)委員、安倍(文)委員、新井委員、小川委員、栗原委員、田口委員、山片委員、山科委員

(欠席)

蓮村副会長、中島委員、古澤委員

(事務局)

青柳保健福祉部長、枝吉福祉総務課長、梶芳福祉総務課福祉総務係長

4 議事次第

1 開 会

2 議 題

(1) 市民アンケート調査結果(報告書)について

(2) 第3章 計画の基本的な考え方(案)について
施策の体系(案)について

3 その他

4 閉 会

5 説明資料

資料1 「昭島市地域福祉計画」策定のための市民アンケート調査報告書

資料2 地域福祉計画第3章 計画の基本的な考え方(案)

資料3 地域福祉計画第3章 施策の体系(案)

資料4 市民アンケート調査 地域福祉に関する自由意見概要

1 開 会

2 議 題

(1) 市民アンケート調査結果（報告書）について

事務局より資料1に基づき説明

新井委員 回答者の属性で、65歳以上の回答が約半数を占めている。高齢者の意見が反映されやすくないのか。

事務局 審議会委員の皆さまや関係団体の方々の意見も踏まえて計画書を作成していきたいと考えている。

新井委員 前回の審議会での年齢配分についての意見を踏まえなかったのか。

事務局 配分はしている。年齢階級別の回収率は約30%台で推移しており、このアンケートも参考にしつつ計画を進めていく。

福島委員 前回の調査項目との比較の欄のところが比較する項目が薄く分かりにくい。

事務局 設問が若干異なることもあるので比較ができなかったが、前回の設問と比較できる個所は反映していく。

福島委員 社会福祉協議会の認知度はどうか。

安倍（弘）委員 昭島市地域福祉活動計画でアンケートを行ったところ、認知度はやはり低い状況にある。今回関連部署や若い人の回答を増やしたが、若い人は報酬が無いと回答してくれないのかもしれない。福祉に興味を持つことが当事者でないと難しい状況にある。

小川委員 民生委員の認知度は高いが、相談率は低い状況にある。新型コロナウイルスの影響で民生委員が地域の訪問を行わなかったことも反映されていると思う。

新井委員 一般市民には、住んでいる地域の民生委員が誰なのか分からない。

小川委員 事務局や市の広報課に問い合わせることもできるが、認知してもらうことが難しいのではないか。

安倍（文）委員 民生委員の受け持つ人数が多く、仕事を持っている人など活動が大変だと思う。

小川委員 東京都の基準よりもかなり多くの世帯を持っている。担い手不足も課題である。

新井委員 知人に民生委員がいるが、仕事を持ちながらの活動は難しいと言っていた。

山科委員 9ページの引きこもりの状態の有無の設問で、50人の方がいると答えたのは重い数だと感じた。

山片委員 引きこもりの回答率が思ったよりも高い。引きこもり支援窓口の受け皿が少ないと感じる。

山科委員 生きづらさを抱えるグループなど、当事者の声が聞こえるような人たちとの意見を伺ったほうが良い。

事務局 今年度引きこもりの実態調査を行う予定である。

新井委員 今回のアンケートと同様に、無作為抽出でアンケートを行うのか。

事務局 引きこもりの方に関しては、一般的な統計として人口の１％が当てはまるとも言われている。訪問調査を行うことも必要であるが、無作為調査を兼ねて全国的な統計がつかめるのではないかと思う。

山科委員 引きこもりに関しては保健所もフォローアップをしている。かかわりを持つ方からのインタビュー等、支援組織の生の声を調査するのも必要かと思う。

事務局 支援組織の声も含めて検討していく。

田口委員 引きこもりの方に対しての支援はどのようなことをしているのか。

事務局 医療機関や都の組織につないだりしている。

田口委員 本人とのコンタクトは。

事務局 直接会う場合もあるが、保健師が相談に応じていて、家族の聞き取り等が多い。支援につながる関係性づくりを行っている。

（２） 第３章 計画の基本的な考え方（案）について

事務局より資料２に基づき説明

福島委員 基本理念の大枠は決定しているのか。

事務局 資料２のとおりで決定したいと考えている。

新井委員 基本目標からの指針になるのか。

事務局 そのとおり想定している。

施策の体系（案）について

事務局より資料３に基づき説明

福島会長 重層的支援体制の整備状況については。

事務局 これから検討していく。取りまとめ部署も決定していない。他市を参考にしながら進めていく。

福島委員 決定していないが基本理念に掲載するとのことか。

事務局	各部連携して対応しなければならないケースが多い。今後体系を立てて実施していく。
福島委員	なんでも相談窓口を設置や立ち上げる等の話は出てきていないのか。
事務局	様々な部署からの意見は出ている。横の連携も必要であるため検討したい。
小川委員	3 様々な課題を抱える方の支援 とあるが、ヤングケアラーの項目は追加しないのか。
事務局	項目として必要だと思っている。各施策に盛り込むかに関しては検討したい。
小川委員	ヤングケアラー支援ブックが東京都より出ているので、昭島市も都と足並みを揃えてやっていくべきでは。
福島委員	民生委員の立場としての実情はいかがか。
小川委員	主任児童委員から話は聞く。兄弟間のやり取りは多い。病気がちの親を見る、祖父母の世話をしている等。
福島委員	依存症について研究をしており、ヤングケアラーについても依存症が隠れていることが多い。（アルコール、ネット依存等）依存症対策の支援は市としていかがか。
事務局	保健福祉センターに保健師がおり、相談に応じている。
福島委員	依存症の相談窓口が他市ではあるが、昭島市はどうか。
事務局	定期的な窓口は無い。相談したい時に電話をする。
山科委員	保健所は専門相談を担当しており、市からの相談でつながることが多く、市と保健所は連携している。ヤングケアラーは昔からある問題。
小川委員	以前は頑張っている子とみなされていたが、そこが問題なのだと再認識されたのではないか。
安倍（弘）委員	視点と目標が重複していないか。
事務局	検討する。
新井委員	2 地域の課題解決に向けた体制づくりについて、支援員を増やしていく計画はあるのか。どのように増やしていくのか。
事務局	人材確保は非常に大きな課題である。資格取得に向けた支援について、補助まで記載できるかわからないが内部で検討しながら案を示していけ

ればと思う。

- 福島委員 各他部署の計画と連動していくのか。
- 事務局 本計画は上位計画にあたる。分野別の計画は各部署で掲載していく。
- 福島委員 この計画について、連携していることを詳しく教えて欲しい。
- 事務局 庁内検討委員会では、各計画を作成している課の長が参加している。次回委員会で今回の意見を反映する。
- 新井委員 それぞれの計画と本計画とのリンクはどのようになっているのか。上位計画となるとあいまいになるのではないか。
- 事務局 守備範囲が広いため、掘り下げるとボリュームが出すぎてしまう。細かい課題は分野別計画で示してもらおう。庁内検討委員会で報告を行い、意見を調整していく。
- 栗原委員 制度のはざまにある方への支援について、重なり合うと思うがそのあたりの認識はどうか。
- 事務局 重複した相談ケースは多い。あえて分けた形で示したが、工夫をしていく必要はある。
- 山片委員 包括的な相談体制を示していくことが必要。連携部署等ができると思う。

資料4 市民アンケート調査 地域福祉に関する自由意見概要

事務局より資料4に基づき説明

質疑なし

3 その他

事務局より次回の審議会を本年秋頃を開催（次期末定）すると説明

4 閉会